

関わったすべての人を幸せにするプロデューサー アール・エフ・ヤマカワ(株)の山川会長講演

経営者クラブ勉強会

津市の経営者たちで作る経営者クラブが7月20日(木)、津新町のプラザ洞津で勉強会を開いた。津市戸木町にあるオフィス家具のアール・エフ・ヤマカワ(株)の山川富喜子会長による講演があり、メンバー10人が聴講した。山川会長は自身の半生、仕事に対する思いや考え方、人との関りの大切さについて熱く語った。

山川さんは両親が創業した家具店の一人娘。家具店とはいうものの小さい町工場で利益を稼ぐことが難しかったという。「高校の授業料を支払うことも大変でしたよ」と明かす。



アール・エフ・ヤマカワ(株)山川富喜子会長

中学からバスケットをやっていた。津女子高校では2年連続

インターハイに出場。キャプテンだった。デザインを学びたかったが父が厳しく、バスケの特待生で名古屋の市郵学園短大に進んだ。全日本大学バスケットボール選手権(インカレ)の決勝戦でアキレス腱(けん)を切った。

「ラッキーな怪我でした。私はデザインが学びたかったのですが、実業団でバスケットを続ける事が決まっていた。だから怪我した瞬間の私の顔は、ヤッター」とまさにガッツポーズしているような顔なんです」と笑う。

東京に出た。アルバイトをしながらデザインスクールに通った。目標だった桑沢デザイン研究所の入学試験に合格した。入学金24万が支払えず、借りた。「どうしようかと悩んでいたらバイト先のお姉さんが、貸した。つて出してくれたんですよ。もう嬉しくてね。食事はパンとカップ麺で切り詰めて月々2万ずつ返し、1年で返済しました。東京に出てくるときに両親は頼らないと決めていたの

で。バイトをしながら卒業し、LDヤマギワ研究所で照明デザイナーとして働いた。厳しかったが、人脈は広がった。1年が経ったころ、実家に戻ってくるように言われて津市に帰った。28歳で結婚。子どもを出産したころ、フジサンケイリビングからの注文を機に東京に進出した。顧客からの要望を形にして、たくさんの商品を手掛けるようになった。

「実はここに自分の桑沢デザイン研究所での経験が生きているんです。桑沢にとびぬけたデッサン力を持つ人や天才的な発想の人であふれていました。これには努力では追いつけないと実感し、それならば私の得意な事、優秀なデザイナーを束ねてプロデューサーとして。顧客のニーズに合わせて得意な人たちが活躍できるようにしたい。今何を考えるべきか考えることが大切だ」と強調し、「愚痴は一切言わない。今何を考えるべきか考えることすらも大きくなります」と話した。東京から戻ってきたころから比べると年商は10倍以上増えている。

「人が見ていないところで1日3善やる」と決めていた。その時々に出会った人に精一杯の幸せを届けるようにしてきた。「パリの空港の待合室で席が空いたため、入って来た男性に、あいてますよ」と声をかけた。とても感謝され名刺交換をした。すると世界銀行に勤めるブルキナファソ人で、後日アメリカで再会すると国連大使を紹介され、ブルキナファソでのデザインに関わる助言をとる依頼を受け、同国に招待された。デザインの指導やイベント企画のプロデュースを行う事になった。など様々な幸運の出会いを紹介。「不思議と運のいい出会いを選んでいくのかも知れませんが、それも自分がどうしたいかを考えるプロデュース力だと思っています」と話す。

講演の最後には、現在考えている新しい学校の構想を説明。「かかわった人たちが幸せになるよう、人生のデザインをプロデュースしていきたい」「もう何歳だからなんてネガティブな話はやめ、何歳からでもいいから目標を持とう。人生を楽しもうとアドバイスしていきたい」と結んだ。

会場からの「どういう時にアイデアが」「子どもに会社を継いでもらうには」などの質問に、「この会社を継いだら面白い子どもが思うように、楽しそうに仕事に向き合うことが大切。とにかく行動を起こさないと良いことも起きない」と話した。